

東大和市の生い立ち

(2003. 5. 20. 新堀公民館)

I 海の中

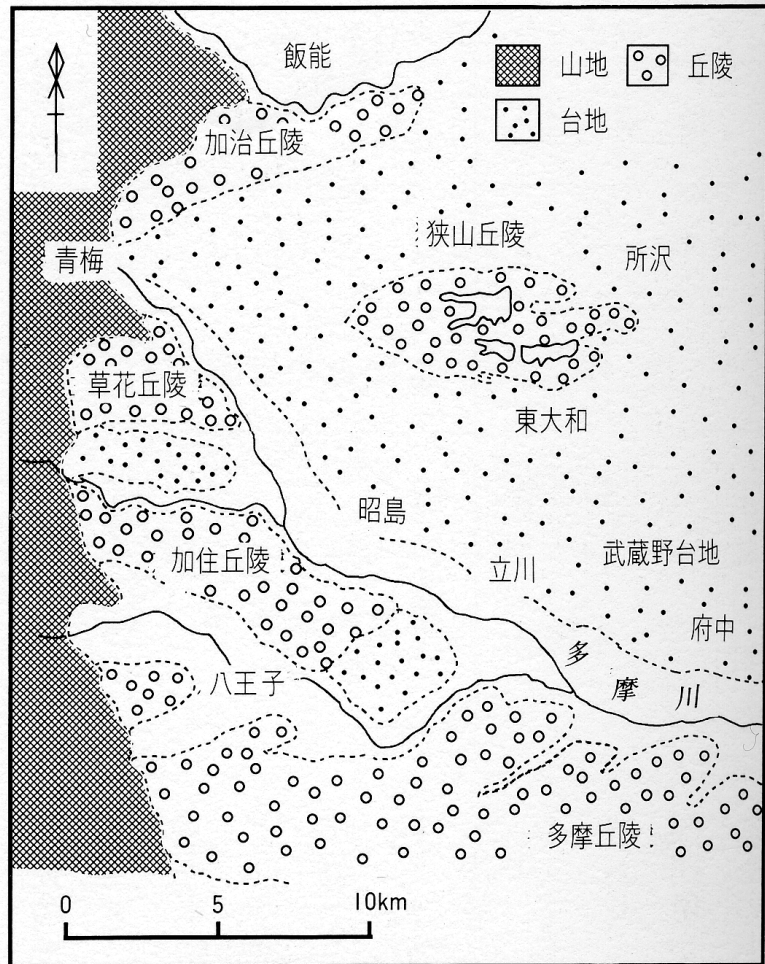


図1 関東平野西部の地形

東大和市史資料編5 p25



昭島クジラの発掘地



関東地方が海の底であった頃、昭島市あたりには鯨が泳いでいた。上日野サメ 下日野クジラ

昭島市の多摩川べりでクジラの骨、日野市でも鯨の骨とサメの骨が発見されています。

狭山丘陵の辺りが渚になった

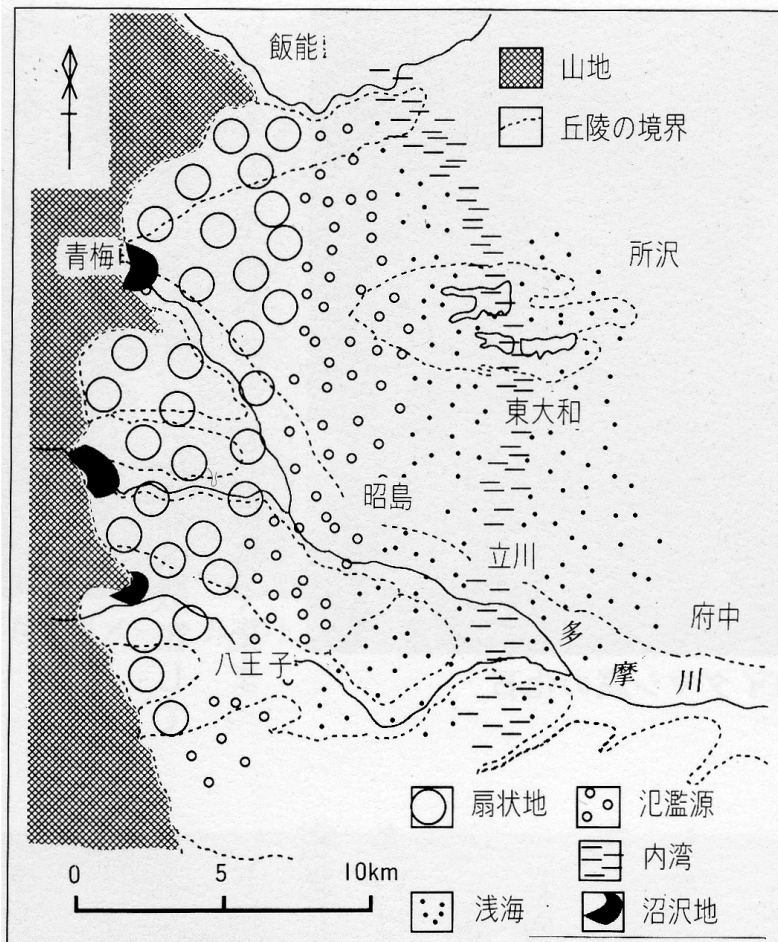


図8 関東平野西部の昔の様子
(50～200万年前)

(東大和市史資料編5 狭山丘陵と生きものたち p36)

- ・東大和市では多摩湖で海水性の貝の化石を発見しました。
- ・植物は「メタセコイヤ」や「オオバタグルミ」などが繁茂し、そこに「アケボノゾウ」が生育していました。

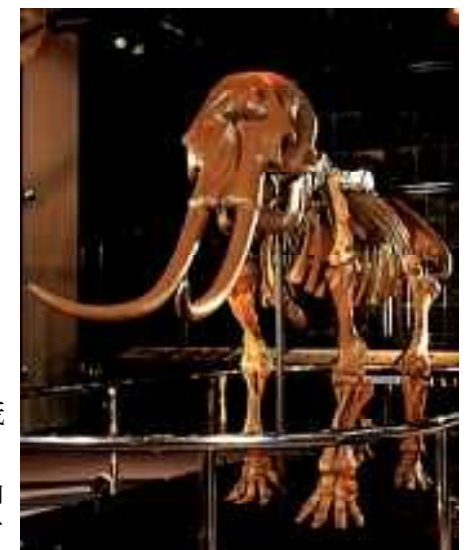
「メタセコイヤ」や「オオバタグルミ」などの化石は狭山市、入間市、武蔵村山市、昭島市、日野市で発見され、「アケボノゾウ」の化石は、狭山市、入間市、福生市、昭島市、日野市で発見されています。「アケボノゾウ」の足跡は入間市博物館、復元は狭山市博物館に展示されています。



カキの貝殻 多摩湖で発見



メタセコイヤ 多摩川で発見



II 狭山丘陵と武蔵野台地ができた

約50万年～30万年前、海水面は後退し渚はなくなり、扇状地（三角州）の形成が進みました。そこに

- ①青梅市の位置を出口として、多摩川などの河川が流れ、砂礫や粘土を堆積した。
- ②河川の浸食作用が進み、丘陵の原型ができた。

狭山丘陵 草花丘陵（多摩川南岸）加住丘陵 多摩丘陵 加治丘陵（霞川の北岸）

- ①火山灰が降り「多摩ローム層」ができた。武蔵野台地の原型ができた

「多摩ローム層」の下に芋窪礫層がある。

- ④さらに多摩川が移った→崖線ができた。(国分寺崖線 府中崖線)
 移ったあとに火山灰が降った(4回)。

東大和の原型ができた(東京周辺の地形図)

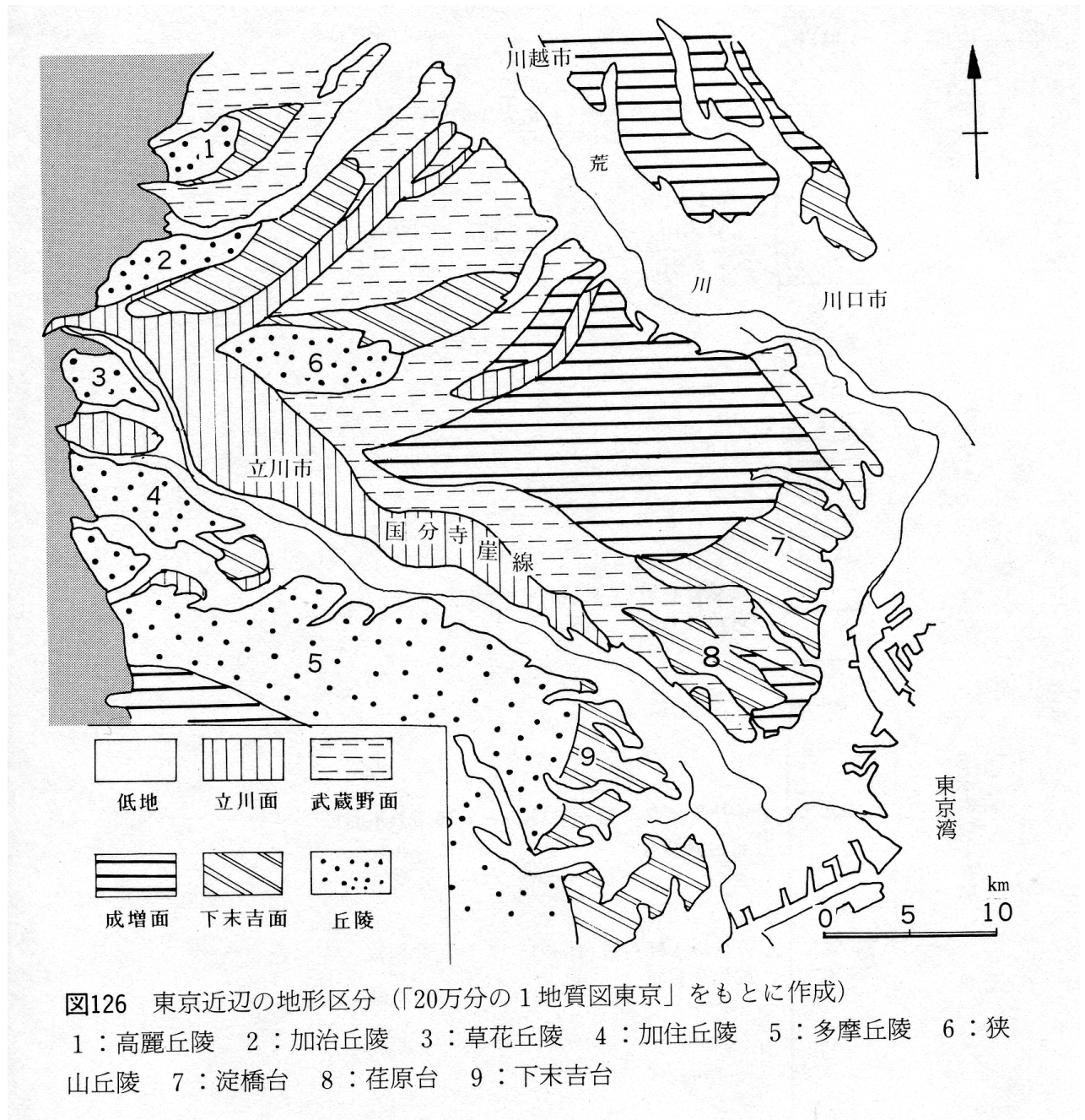


図126 東京近辺の地形区分(「20万分の1地質図東京」をもとに作成)

- 1:高麗丘陵 2:加治丘陵 3:草花丘陵 4:加住丘陵 5:多摩丘陵 6:狭山丘陵 7:淀橋台 8:荏原台 9:下末吉台

(大森昌衛監修 東京の自然をたずねて p207)

- ・東大和市域の原型ができました。それは狭山丘陵と南に広がる台地で形成されます。この地形はその後の歴史に大きく作用しました。
- ・多摩川は丘陵だけでなく、国分寺市や府中市などに大きな削り跡を残しました。国分寺崖線、府中崖線と呼ばれます。この崖線は特有の歴史を伝えます。